

プラントとポットの物語

小田康平 × アダム・シルヴァーマン



プラントとポットの物語 京都展

小田康平 X アダム・シルヴァーマン

会期：2014年10月18日(土)～31日(金)

A Tale of Plant & Pot「プラントとポットの物語」はアダム・シルヴァーマンと小田康平、そして、それぞれの作品の対話です。完璧なる不完全に“美”を見出す二人。美しい釉薬で仕上げるアダム・シルヴァーマンの作品は挑戦的かつ奥ゆかしさを併せ持ちます。今回の京都展「A Tale of Plant & Pot」のため、シルヴァーマンは自然界の最も基礎的な要素「土」を使い、彼がそうして紡ぎはじめた物語（器）を、小田の選んだプラント(植物)が完結させる。小田は、常に個性のある珍しい植物を探して選ぶところから制作を始め、「接ぎサボテン(接ぎ木)」を施し、二つの植物の組織を合わせたところに、美を見出します。ハイブリッドとなった新しい植物の美を称え、その不完全性の中に潜伏する可能性を小田は表現へと昇華していくのです。

今年、2014年4月にアメリカ・ロサンゼルス・セレクトショップ&ギャラリー『チャリオッツ・オン・ファイヤー』で開催し、好評を博したA Tale of Plant & Pot「プラントとポットの物語」。巡回展の第二弾は、日本・京都にて。京都の中でも歴史的な地区として知られる祇園と西陣での展覧会の運びとなりました。今回、アダム・シルヴァーマンと小田康平の共作は、日本国内では、京都での初お披露目となり、七箇所にあぶ展示は二人の作家の継続した対話のそれぞれ独自の句読点をも示唆します。

会場となる「かみ添」、「みたて」、「かね井」、「麩嘉」、「Books & Things」、「Zen Cafe by 鍵善良房」、「ない藤」、は何世代にも渡る工芸技術や、京都の伝統を伝える面々であるとともに、革新的でモダンな作り手やキュレーターです。紙屋、園芸店、伝統的な履物屋、本屋、また京都ならではの絶妙な甘味や味わいを提供する料理屋などそれぞれが、プラント(植物)とポット(器)たちを引き立てる場となる、連鎖のある展示を構成。たとえば、伝統的な町屋づくりの建築や空間などが、作品の背景となり、環境となり、各々の会場での作品を通して、シルヴァーマンと小田の作りだす、独特な調和に触れることができる仕掛けです。

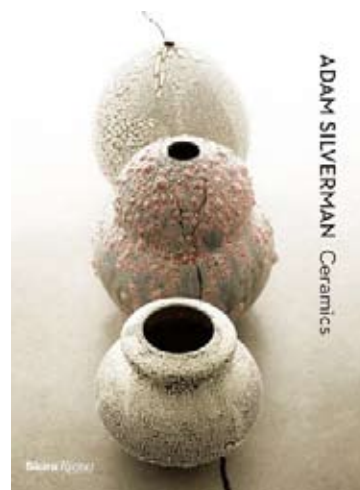
7カ所の会場を巡り、それぞれの作品を実際に目にすることで、視覚や嗅覚など、五感で感じる作品鑑賞を楽しんでいただけることを願っております。

参加アーティスト

アダム・シルヴァーマン

ニューヨーク生まれ、コネチカット育ち。ザ・ロードアイランドスクールオブデザインでアートと建築で学士を取得後、1988年、ロサンゼルスに移る。建築の仕事を経て、9年間ファッション業界に従事。2002年から陶芸家となり、ロサンゼルスのヒースセラミックのスタジオディレクターを勤めた。現在は自身のアトリエで作家活動を行っている。作品は、主にロサンゼルスとテキサスのギャラリーで展示販売され、東京、京都でも個展を開催し、日本でもファンが多い。2013年、192ページの作品集『Adam Silverman Ceramics』をRizzoli出版から出版。

<http://www.adamsilverman.net>



小田康平 (おだ こうへい)

1976年、広島生まれ。2012年、植物屋「叢 - Qusamura」をオープン。"いい顔してる植物、をコンセプトに、独自の美しさを提案する植物屋「叢 - Qusamura」店主。みずからが日本中を旅して集めた個性あふれる植物を、その個体の特徴を引き出す器とあわせて提案する。

2013年、アメリカで初の展示をロサンゼルスセレクトショップ&ギャラリー『チャリオッツ・オン・ファイヤー』にて、開催。

2013年、『見たことない サボテン・多肉植物』出版。

<http://qusamura.com>



TAMOTSU YAGI DESIGN:

ロサンゼルスベニスをベースに活動するグラフィックデザインスタジオ。

本展「プラントとポットの物語 京都展」のグラフィックデザインを担当。

2013年、アダム・シルヴァーマンの192ページの作品集「Adam Silverman Ceramics」のブックデザインを手がける。

<http://www.yagidesign.com>



展示場所について

アダム・シルヴァーマンと小田康平の作品は7箇所の異なる場所で展示。

来場の方は、各々、自由に作品を見て回ってください。

今展示会のメイン会場はかみ添となります。



かみ添 (紙屋)

京都・西陣の小さな工房で、「型押し」という古典印刷技術で多種多様の版木を使い、手摺りにより文様を写した紙を販売している紙屋。唐紙の老舗で技法を習得したオーナーが全てを制作する紙の中でも、特に白紙に雲母を入れ込んだ紙は、とても美しい。また襖紙、壁紙から便箋、封筒、ポチ袋まで制作している。

今展示会の中で、最多の作品数を展示。

住所：京都市北区紫野東藤ノ森町 11-1

11:00~18:00(月曜定休)

<http://www.kamisoe.com>

みたて (花屋)

練続きの趣きある町屋の一角に佇む、山野草など季節の植物を扱う花店。

野山を運んできたような雰囲気の内には、店主夫妻が「今だからあるものを」と選んだ、

自然そのままの美しい草花や花木が並ぶ。

「見立て」という言葉どおり、「物を本来のあるべき姿ではなく、別の物として見る」という日本人の美意識が生み出した文化や感覚を大切にしながら、植物で表現できる新しい価値観を伝えているお店。

住所：京都市北区紫竹下竹殿町 41

11:00~18:00(月曜日定休)

<http://www.hanaya-mitate.com>





かね井（蕎麦屋）

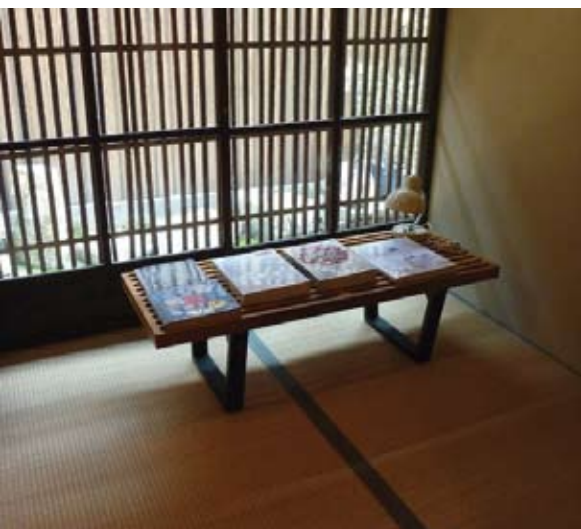
鞍馬口通にある築 90 年を超える町家を改装したかみ添のそば店。店主が、石臼で自家製粉して手打ちで仕上げる香りと コシのある十割そばを提供する。蕎麦に合わせるのは、丁寧にだしをとったバランスの良いかえしやつゆ。日本酒とちょっとした酒の肴もおすすめ。

住所：京都府京都市北区紫野東藤ノ森町 11-1
11:30~14:30 17:00~19:00(月曜定休・祝日の場合は営業、翌日振替休)

麩嘉（生麩製造）

約 200 年前の江戸時代の後期に創業した、京料理に欠かせない食材、生麩を作り続けている麩専門店の老舗。店の横には蛇口と石臼の水受けがあり、そこから水質の良い地下水が汲み上げられ、その水を使用して生麩を作っている。生麩の他に、笹の葉で巻かれた麩まんじゅうは、きめの細かいこしあんと、プルンとした生麩の食感が人気の一品。また、オーナーが NY で経営するミシェランの一つ星の精進料理の「Kajitsu」には、かみ添の嘉戸浩が制作した本銀屏風が展示されている。

住所：京都府京都市上京区東裏辻町 413
9:00~17:00(月曜日、最終日曜日定休)



Books & Things（古本屋）

2011 年 9 月、祇園にある二間の座敷をもつ古い長屋を改装した書店。履物を脱いで上がる 2 畳間と 4 畳半の京間には、海外を中心とした国内外のアート、建築、デザイン、食、写真関連の古書や雑誌が充実。本のほか、オリジナル・プリントやポスターなども店頭で並ぶ。入り口の 2 畳半の間では、オーナーのキュレーションで展示が一月ごとに変わる。

住所：京都市東山区古門前通 大和大路下元町 375-5
12:00~19:00(不定休)
<http://andthings.exblog.jp>



ZEN CAFE by 鍵善良房 (Cafe)

江戸の享保に創業され、祇園で京菓子をつくり続けている『鍵善良房』の店主が開いたカフェ。斬新でモダンな店内では、「和菓子とお茶のある風景」を提供し、ゆったり上生菓子と、お茶を味わうことができる。吟味した素材を、代々伝わる製法で、丁寧に細やかに作られた和菓子は、豊かな四季の移ろいや、日本の美を映しだしている。歴史的に、菓子屋というのはモダンで斬新な存在だったという事を、再確認できるカフェ。

住所：京都市東山区祇園町南側 570-210

11:00 ~ 18:00(月曜定休)

<http://www.kagizen.com/cafe/>

ない藤 (履物司)

創業明治八年、端切れから履物を作るところから始まった履物屋は現在五代目。丁寧な下準備の上に作られる履物は手直しが出来、足に吸い付く履き心地と評されている。また、緑色の台に赤色の花緒などにみられる伝統的色彩バランスと倭紙、拭き漆などの素材がとても美しい。四代目が残した言葉には、「はきものはお身をいかす器か」「京に培われたけじめは、あしもとをみる・お大切に」・・・など。履物は足に添える詩のようなものだとも言えるかもしれません。

住所：京都市東山区縄手通四条下ル

10:30 ~ 18:00(不定休)

<http://www.gion-naitou.com/en>



* 展示会についての新しい情報は chariotsonfire.com にて、随時、更新中。

企画

Chariots on Fire チャリオッツ・オン・ファイヤー

セレクトショップ&ギャラリー。オブジェを通してひろがる、旅、デザイン、歴史とものづくりの物語や、美しいものを求めるアーティストと人との出会いの場所。

予期しないコラボレーションや人が集まることによって、新しい価値や意味が生まれることを楽しむイベントや展示会を企画。

コンタクト :shop@chariotsonfire.com

住所：1342 ½ Abbot Kinney Blvd. Venice, California 90291 電話：310.450.3088

12:00~18:00(不定休)

<http://www.chariotsonfire.com>

@chariotsonfire_la (Instagram)

#chariotsonfire

#ataleofplantandpot



2014年4月、チャリオッツ・オン・ファイヤーでの展示風景



A



B



C



D



E



F

写真：小田康平

写真はこのアドレスからダウンロードして頂けます。 <http://www.chariotsonfire.com/press-releases/>

CHARIOTS ON FIRE